

白笹稲荷神社 秦野市今泉 1089

創建の年代については詳らかではありませんが、この地先住の古代水田農耕民族は、その水田耕作に不可欠の水源に、また人間の生存の礎となる衣食住の源としての「水源(みなもと)」に清らかに神奈備を覚出しました。「宇迦之御霊」(うかのみたまのみこと)と仰ぐ稲魂・穀霊を祀り「保食神」、「生産の神」として信仰し白笹稲荷の小祠を祭祀してきました。秦野は古代大和豪族・秦氏にゆかりの地であるといい、『風土記』によれば、稲荷信仰を広めたのも秦氏で、秦公(はたのきみ)が山城国に「伊奈利(伊奈里)」を祀りしたことに始まるといわれています。秦野の名水が湧き出る境内には限られた期間だけ金色に輝く「黄金の泉」と呼ばれる池があり、金運に効く縁起のよい池として参詣者の注目を集めています。関東三大稲荷の1つとされている(ほかに、笠間稲荷神社(茨城)・王子稲荷神社(東京)・装束稲荷神社(東京)・・・王子稲荷の摂社)。



閑静な住宅地に突然現れる真っ赤な大鳥居



竹を組んだ手水場



二の鳥居の向こうが本殿



子守をする母狐の石像



宝玉を持つ狐



本殿



本殿上の彫刻



狐が穂を加えている



金色に輝く「黄金の泉」と呼ばれる池で金運に効く縁起のよい池